安来市体育協会だより

第 1 号　　平成22年9月1日発行

第９０回記念布部相撲大会に 元大関 出島関 来たる

第90回記念布部相撲大会実行委員会
実行委員長　山 本　　潤

この大会は大正１０年に始められ、毎年１０月２９日に布部常設相撲場に於いて開催されます。

今年は９０年の節目となるため、９０周年を記念大会とし、元大関出島関（大鳴戸親方）に来て頂くことになりました。元大関出島関とのちびっこ相撲を通して子供たちに相撲の楽しさを伝えるとともに、各自治会並びに若者の参加を広く求め、伝統行事の布部相撲大会を地域住民の思いの場とするとともに、末永く継続し地域の活性化を図りたいと思います。

元出島関とツーショットで写せる写真撮影会をしますのでカメラを持参下さい。また、サイン会をしますので描いて欲しい色紙・Tシャツ・ノート等各自持参下さい。サインペン等筆記用具は大会本部で準備します。

元大関出島関は相撲協会の一員としてお忙しいため、最終的なスケジュールを調整中で、現時点では紙面に詳細な時間を載せる事が出来ませんが、今後ポスター・チラシ等でお知らせしますので、是非元大関出島関の姿を御覧下さい。

●続ける喜びを伝えたい

広瀬町少年フェンシング教室

広瀬町少年フェンシング教室は、平成８年にスポ少として発足し、１５年になります。

スポ少を創めたときは、一人でも多くの小・中学生に入会してもらうことが目標でした。

その上で、高校や大学でも続けてもらえる、続けることに夢が描ける、生涯スポーツとしての環境づくりを目標にしていました。

現在では、多くの会員がスポ少を卒団し、高校や大学で継続したり、社会人となっても大会参加したり、また、スポ少の新たな指導者や応援団となっています。

スポ少は、人生の中で子どもたちが始めてスポーツに関わる時期だと思います。競技の面白さを存分に体感させ、その上で、我慢や強調、ルールを教え、少しでもスポーツを楽しいと思う子どもを育成し、一つの競技を続ける喜びを持てる『未来の名選手』を、競技は№？でも『心の名選手』を育成していきたいものです。

●あなたも一緒にどうですか？

ゲートボール部

生涯スポーツとしてゲートボールは、老人クラブより発足し、現在に至っています。

今では、児童の健全育成として全国で普及しています。

島根県でも出雲西高校がミドル級全国大会で昨年３位の成績を残しています。

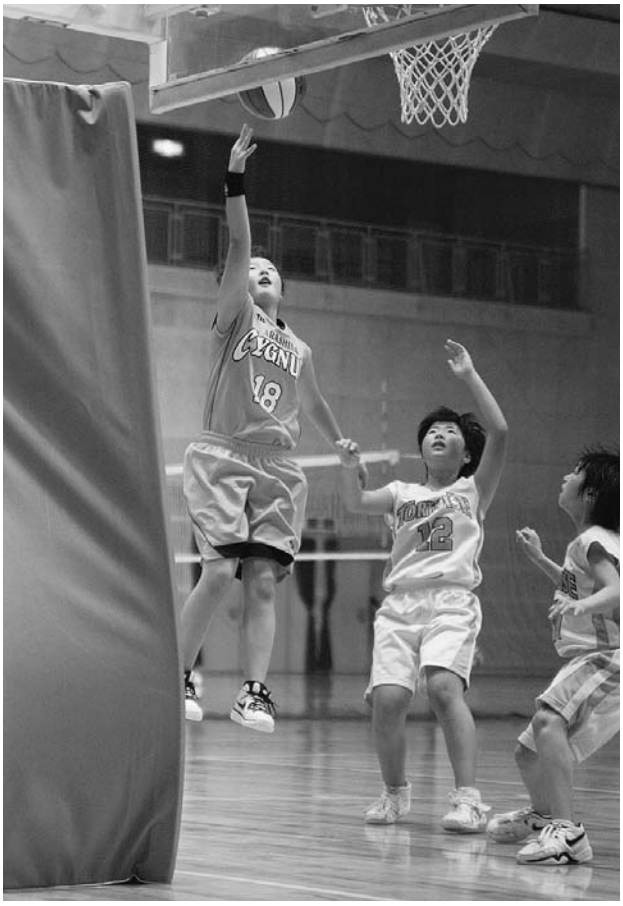
当安来市では、ジュニアチームは存在しませんが、出雲市等では盛んです。

シニアレディースで前年度は、やすぎチームが“全国選抜鳴門大会”，“全国2009みやざきスポーツレクリエーション大会”に参加いたしましたが、成績は今一つでした。

１０月２日(土)～１０月３日(日)に山口県きらら博記念公園多目的広場会場で開催の中国選手権

大会に、「十神大橋チーム」，中国女子選手権大会に「安来てまりチーム」，「新生チーム」２チームと共に参加します。
競技者減少の事情ですが、若年層の参加で活気を呼んでいます。
チームワークプレーですのでやって見ると面白く、楽しくプレイできます。
昔のゲートボールの評判が悪くイメージダウンがなかなか解消できませんが、他地区の親善交流には欠かせないスポーツともいえます。
外で遊ばない子供もジュニアとして参加し、祖父母の指導で楽しい生活リズム、意欲も湧いて、もっと昔の子供の様に活気が生まれるスポーツだと思います。

こんにちは!!　バスケットボール部です



毎年、数々の大会や審判者育成会など運営し沢山の皆様に参加して頂いています。
一番大きな催しは、何と言っても「Ｙリーグ」!!
今年で１３年目となり、本年度は５８団体（約９００人）の皆様より参加申込を頂きました。子供から大人までバスケット大好きな人たちが１０月から翌年３月まで楽しく！　時には苦しく？　汗を流します。興味のある方は是非一度Ｙリーグのホームページを開いて見てください。
http://www.y-league.jp　へＧＯ！

そして、今とっても悩ましいのが「新井春生杯ふれあいカップ西日本大会」です。
なんと！　小学生約８０団体が安来市近隣市町に集い、熱い熱戦を繰り広げるのですが、相手はパワフルな小学生！　準備段階で息切れしている私達と熱意が違います。
夏休み最後の素敵な思い出になるよう頑張ります！バスケットボール部に応援よろしくお願いします。

第30回全日本トライアスロン皆生大会　2010.7.18(SUN)

トライアスロンと出会って

赤屋体協事務局　川上　賢育

トライアスロンという競技を知っている人はどのくらいいるでしょうか。
中にはあるテレビ番組で紹介などをしていたのを見て知っている人もいるかもしれませんが、あまり有名な種目ではないと思います。
自分も数年前までは知らない人の１人でしたが、トライアスロンを行っている人との出会いで、競技を知りましたが、スイム（水泳)、バイク（自転車)、ラン（マラソン）の３種目を１人で行うなんてとても過酷な競技であり、自分は参加することなんて絶対ないだろうと思っていました。
しかし、自分は陸上をしていたこともあり、トライアスロンをしている人から「やってみたら」という言葉をいろんな人から聞き、心が揺らぎました。
そして、２年前初めて皆生トライアスロン大会に挑戦し、今年も２回目の参加をしました。距離はスイム３㎞、バイク１４５㎞、ラン４２．１９５㎞ですが、両大会とも無事にフィニッシュすることができました。特にゴールの手前から家族や友人などと一緒にフィニッシュできることはトライアスロンの特徴の１つではないかと思います。また、沿道の人の応援やボランティアの方など多くの人の支えがあり、ゴールを目指すことができました。
今年で３０回目となった皆生トライアスロン大

会では、３人１組でそれぞれ１種目を行うリレーの部が初めて創設され、過去最高の参加人数となりました。３種目すべて１人で行うことは難しくても１種目ならこなせるという人は多くいると思います。

来年もリレーの部があれば仲間を募って参加してみられたらいかがでしょうか。

こんなスポーツ

冨田　益司

人生という大事な時間の中でスポーツをする人は多い。

スポーツに何を求めるのかは個人、個人によって違う。楽しさを求める人、強さを求める人、健康増進を求める人、ストレス解消を求める人等々だが、しかし続けて行くとそのスポーツが身についた宝となって今以上に楽しめるのは間違いない、まだそれ以上に楽しむには学ぶことも必要となってくる。

スポーツは練習より試合の方が楽しいが、掛け声を掛けるスポーツでなくても、思いもしない球が飛んで来た時は「おっとどっこい」年輩の方の違う掛け声が聞けるのも楽しさの一つだ。

見る、動く、どこに打つか決める。そして打つ、次ぎの動作に入る、一連の動作の繰り返しだが速い時には０.何秒かで動いて、打つ、自分の想い通りに決まればストレスも飛んで行くほど爽快なスポーツ、それが“バドミントン”だ。

ペタンク部の生い立ちと現状

百田　哲男

安来市のペタンクは、近隣の市町より若干おくれて、平成９年島根県老連第１回大会を契機に、安来市老連ペタンク同好会として誕生した。

初心者講習やライセンス講習など普及活動が盛んに行われて、多くの愛好者が生まれました。

その後、発展して平成１３年に１５０名の会員で安来市ペタンク協会となった。本年は創立１０周年の節目の年にあたり、秋には記念大会も予定している。

自治体の合併により、平成１９年度からは広瀬、伯太の協会とも合流し一体となって活動する。

主な事業内容

４月	会員総会と親交大会
	資格者と役員の研修会
５月	県スポレク祭予選大会
７月	夢ランド杯大会
９月	安来市老連大会
１０月	市民オープン大会

一方、上部団体の島根県ペタンク協会が主催、主管の大会は、＊健康福祉祭大会＊スポレク祭大会＊選手権大会＊オープン大会等などあり、その都度参加しているが成果は今一つぱっとしない状況で、優勝記録は島根県老連第７回大会で前飯島チームの１回のみです。

対外的に強いチームづくりも必要であると同時に、内的には幅広く愛好者を育てる必要にも迫られているのが現状である。

世代をこえて竹刀で交流

安来市剣道連盟

安来市剣道連盟（生和弘之会長）の活動は剣道の普及と青少年の育成、親睦を目的に安来・荒島・南・広瀬・比田・伯太の六地区がスポーツ少年団体として活動しています。

剣道人口は小学生から一般まで含めるとほぼ１５０人弱で、行事は年３回の剣道大会・春秋２回の段級位審査会・講習会等を開いています。

一般の稽古会では日立金属が週１回の稽古会を行い、小学生から６０代の一般まで幅広い層の剣士が集い少年指導と稽古に励んでいます。

現在では合格率数パーセントの全国審査に合格した六段・七段の剣士が１０人となりましたが、更なる上達を目指して励んでいます。

社会人としての使命

安来剣道スポーツ少年団 指導者　木戸　精一

７月４日の県少年武道大会で小学生中学年、高学年団体戦の部は、いずれもベスト８でした。ここ１、２年県レベルの大会ではなかなかベスト８を突破出来ないでいます。

しかし、今回は、中、高学年とも内容的には一本差という惜しいもので次につながる試合内容でした。

勿論私たちは、試合に勝つことを目的としてはいませんが、大きな大会で上位に入るチームは、剣道の技術が高いだけでなく、礼儀作法、指導者に対する姿勢、また、チームワークが優れているように思いました。指導者の一人としてこのよう

な要素も十分加味した指導の在り方が重要である。ベスト４以上を目指すことは、このような人間としての基本的な要素をしっかり身に付けさすことが必要であると今回の試合を観ながら感じた所です。

今年は、創立４０周年記念行事で１１月にロシアナショナルチームの監督をされている京都の吉山先生、北辰一刀流七代宗家の椎名先生をお招きして礼儀作法、実技について講演と指導をしていただきます。子供たちと一緒に学び本団の目的である『社会人としての使命を果たす人間になる。』ことを目指した修業の場として益々充実させていきたいと考えています。

●安来の柔道

安来少年柔道教室

現在の安来市の柔道は昭和３０年に連盟が創設され、戦後GHQの日本武道の規制、解除とともに比較的早くからの連盟の立ち上げだったと聞いております。

柔道は礼節を重んじる美しい所作や相手を尊重し思いやる心を大切にする日本の伝統的な武道です。

現在、中学校では平成２４年度から新学習指導要領の完全実施に向け武道必修化のための準備が進められていますが、その中で安来少年柔道教室は今年で３４年を迎えております。

生徒も幼児から高校生まで男女３８名が在籍し、県内でも有数の大道場になっております。

実力の方も過去には県武道大会５連覇や数々の大会で優勝するなど国体、インターハイ等で活躍する選手を沢山輩出してきました。

今年も７月１１日に開催された県立武道館４０周年記念県少年武道大会において、低学年が優勝チーム相手に接戦の末敗れ、３位となる成績をあげ頑張っております。

H22.7.11　県立武道館４０周年記念
県少年武道大会　第３位
前列右より　安藤泰雅、藤原大二郎
佐藤影虎、佐伯賢悟
後列右より　瀧山千晶、木戸将大

柔道に興味ある方は安来市民体育館格技場で毎週月、木曜日１８時から稽古をしていますのでぜひ足を運んでください。

●フォークダンスで　若返り

安来市フォークダンス部

私達安来市フォークダンス連盟は、平成１３年４月に結成し、今年で１０年目という節目を迎え、去る８月１日に県下に呼びかけ盛大に１０周年記念フォークダンス大会を安来市民体育館にて開催いたしました。

講師を日本フォークダンス連盟参与の奥野忠枝先生（日本レクリエーションダンス第一人者）をお迎えし、県下はもとより米子市、境港市からの参加もあり３００余名が一堂に会し、先生の卓越した指導のもと、７曲の新曲を講習していただき、フロアーいっぱいにカラフルな衣装で舞い踊る姿は圧巻でした。また、安来市連盟会員６０名による「ザ・ラストワルツ」のデモンストレーションも会場の皆さんにご披露し好評を得ることができ練習の甲斐があったと皆で喜びました。

平素７９名の市連盟会員はそれぞれの１１のサークルに属し、毎週１回の練習、年６回の市連の集い、数回の県連講習会、あるいは中国地区、全国の指導者講習会に出掛け、日々研鑽に努めています。

会員一同年々歳を重ね、平均年齢は７０歳を超えていますが、気持ちはますます若く、踊りを覚えることで脳の活性化に繋がり、ひいては生涯スポーツの振興にも寄与できるのではないかと、手前味噌ながら自負しているところです。

１０周年を契機とし、会員一同ますます結束を固め、一歩一歩前進していく覚悟です。

●気軽にサイクリングを

サイクリング部　小山　樹雄

サイクリング部では、皆様に気軽にサイクリングをしていただくために、毎年４月末、春の市民サイクリング大会を開催しています。

毎年市の内外から多くの方々に参加いただき(本年度は１６０名)、約３５キロのサイクリングコースを楽しく走っています。

３５キロというと一般の方には少しハードと思われるかもしれませんが、時間も充分あり無理なくマイペースで走れます。そして２０キロ地点では昼食をとり、１時間程度休憩をとりますので、あまり疲れたという声を聞きません。また、ゴール後に例年行っている豪華賞品（特等は自転車）が当たるかもしれない抽選会も大人気です。

サイクリングは腰や膝に負担が少なく、有酸素運動であり全身に効果があります。ママチャリで

も無理なく充分な効果が得られ、理想的なフィットネスのひとつであると言えるのでしょう。
今後もこのサイクリング大会をさらに大きな大会にしたいと考え、会員は頑張っています。
皆様の参加をお待ちしております。

グラウンド・ゴルフの裏方として

安来市グラウンド・ゴルフ協会
事務局　福田　晋也

私が、安来市グラウンド・ゴルフ協会の事務局を担当するようになってから早いもので６年程になります。
安来市において、グラウンド・ゴルフが始まったのは昭和６３年からと聞いていますので、これまでの先輩の方のご努力に感謝の気持ちでいっぱいです。
当協会（平成２２年度　安来・広瀬・伯太各協会の会員数　合計６４３名）の事業としては、毎年２月末までに次年度の役員会を開催し、事業（大会）の年間の実施計画を早めに決定し、大会がスムーズにできるように配慮しています。
開催回数も毎年３月から１１月まで年間約７回、参加募集のための開催要項の作成と配布・参加申込みの受付、プログラムの作成、そして大会当日の運営等かなり「ハードスケジュール」な面があります。
参加人数は、平均して毎回３００名前後で、個人競技が中心となるため、競技の終わるのを待って選手の成績順位をパソコンに入力します。参加者の氏名・合計打数・成績の順位等を表計算（エクセル）を使って瞬時に並び替えし、成績の結果が間違いなければ、プリンターで印刷すれば、成績発表と表彰式になります。
この大会を通じて、迅速な処理と正確な入力が必要とされたパソコンの処理が無事終わり、思わずほっとすると同時に、事務局として参加者の皆さんにお役に立ててよかったと思うことがあります。

∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞

遊びのスポーツ少年団

安来中央スポーツ少年団
代表指導者　野坂　啓二

安来中央スポーツ少年団は学校が土曜休日となったのを契機に発足しました。
「何の（種目）スポーツ少年団ですか?」とよく質問を受けますが、決まって「遊びのスポーツ少年団です。」と答えます。実際の活動は、夏場のカヌーを中心に、冬はスキー・スケートなどのアウトドアスポーツと餅つきやパン作りなどを季節に応じて行なっています。
年齢構成も幅広く、リーダー会の活動を中心に参加している中・高生から小学１年生まで約３０人がいて、出来るだけ多くの体験・経験をするための活動をしています。
夏場は月２回、冬場は月１回と活動回数は多くありません。しかしながら、ジュニアリーダースクールや全国スポーツ少年大会などの交流大会には欠かさず子どもたちを送り出して来ました。送り出すときの言葉は決まって『友達をつくってこい！』です。今年は島根県が全国大会を主催したこともあり、参加者４００名余りの団員の中で、中・高年はリーダーとして大会運営に関わりホストの役割をしっかり努めてくれたことが大きな収穫でした。
私たち指導者は「スポーツ嫌いの子どもを作らないこと。」を肝に銘じ、「大人になっても体を動かすことが好きでいて」と願いながら、子どもたちと一緒に遊んでいます。

スポ少全国大会

安来中央スポーツ少年団
指導者　上杉　達美

平成２２年７月３１日から８月３日までの３泊４日で国立三瓶青少年交流の家を主会場に第４７回全国スポーツ少年大会が開催されました。
毎年持ち回りで開催される本大会は今年は島根県がホストとなり４４道府県（岩手、東京、宮崎が不参加）から小学生１４９名、中学生１２６名、高校生３２名そして指導者含めて総勢３５１名が全国から集まりました。安来中央スポーツ少年団は島根県の代表として６名、運営する側として１４名（内リーダー１２名）が参画しました。
初日は浜山体育館（カミアリーナ）で開会式が行われ、安来節保存会若手『SOW～想創』による歓迎セレモニーがありました。そして舞台を三瓶に移し早速各県がバラバラになって２０の生活班を作り（１８名／班）これに島根県のリーダーが２名程度ついて交流活動が始まりました。班員が力を合わせた（SHIPS)活動、と小・中・高と年齢別に班を組みなおした石見銀山探訪、来日中のド

イツスポーツ少年団とのサプライズ交流と盛沢山の内容でしたが、通常この様々な活動を引っ張るリーダーは高校生が主となりますが今年の大会は中学生がその任を担いました。

幾分リーダーたちはどうしたらいいか迷う場面もあり（若干の不手際もあり）心配しましたが、各県の指導者さんからもリーダーたちが一生懸命であることが感じられ、そして何より楽しんでやってることが参加した他県の子供たちにも伝わってるのがとても良いと好評でした。

リーダー・高校生たちは次の指導者として、小中学生はリーダーとして一層の飛躍をしてくれることを感じさせる（失敗・成功両面で）大会でありました。

平成２２年度 島田ビクトリーズ

今年の島田ビクトリーズは、６年生６人、５年生９人、４年生５人、３年生６人の合計２６人で活動を行っています。

６年生の野々内 樹 主将を中心に、ねばりの野球で試合を戦ってきました。

主将を含む６年生、今年の目標は？

『ＪＡカップ県大会に出場することです。』

結果は、惜しくも２位、子どもたちの持てる力を十分に出して戦った１戦でした。

他大会の結果ですが、ろうきん杯 安来の大会では、見事優勝！ ブロック大会では、２位通過を果たし、県大会出場。県大会では、準優勝という良い成績を残すことが出来ました。

これからもまだ、大会がありますが、子供たちの良い思い出が残せるよう指導者、ＯＢ、そして保護者が、団員達と一つになって頑張っていきたいと思います。

上の台少年男子バレー ２０回を振り返って

成人式を迎えた　役員より

２０回を迎えたんだな、よく続いたな、いやあっと言う間だったな。同じ伯太のまちで開催している少女バレー「チューリップカップ」は２２回を数えるが、地方での男子バレー大会においてはそう類を見なくなりました。男子チームの場合は他のスポーツとの競合で、チーム数も少ない上、昨今の少子化問題も影響を受け、伝統ある伯太の男子バレーチームもこの波に打ち勝つことは難問であります。

この大会を通して、伯太の少年バレーは島根県はもとより全国にも名を轟かせ。諸先輩たちが築き上げてきたその証は、伯太中学男子バレー・安来高校男子バレーに見られますよう地域における活力であり、励みでありました。

田舎の小さな小学校の体育館でやっとこさ２面のコートをとり、のびのびとプレーもできない中において、ちびっ子達はいつの大会も大きな声を出し、力いっぱいプレーをして私たちに感動を与えてくれました。しかし地元チームがいない大会は、どこと無く空虚感と寂しさがありました。「上の台少年男子バレー」は、２０回の節目をもって閉幕しますが、少年男子バレーボーラーの夢は断ち切れることの無いよう、私たち先輩らが支えて行きたいと思っています。

今年の島根県大会で優勝したのは地元「安来レイダース」でした。同じ地域で新しい芽が出てきています、是非「上の台」の後を継いでいただきたいと思っています。協力は惜しみません。

『大会の思い出』

東出雲町　揖屋クラブ

長く続いてきた『上の台緑の村バレーボール大会』が２０回で幕をとじられるということ本当にさびしく思います。私達、揖屋クラブは記念すべき第１回から招待していただき大変感謝しています。今回最後の大会を学校行事のため参加できなくなったことは、本当に残念でした。しかし、今まで本大会に参加させていただいたことは、競技力向上だけではなく、県内はもとより、県外のチームとも交流の輪を広げさせてもらい、本当に有意義でした。

大会はなくなっても島根県の小学生男子のバレーボールの火を消さないよう、子ども達と共に競技

を続けていきたいと思います。そして、今までお世話になった伯太町の皆さんに感謝し、バレーボールができることにも感謝し、精一杯努力していきたいと思います。

本当にありがとうございました。

……

米子市　**住吉男子**

『この子達はスゴイなぁ！』２０年前、男子バレーに関わったばかりの私を驚かせたのは、山陰両県のトップチームの素晴らしいプレーでした。県外の大会に初めて参加したチームでしたが、いつか『センターコートで試合がしたい』の思いは強く残りました。それからは大会を通じて知り合った多くのチームと練習試合を重ねて、徐々にチーム力もアップ、１０回大会では念願の初優勝が出来ました。

その年私自身初の全国大会出場は、赤屋クラブとアベック出場となったのも懐かしい思い出です。大会前日の交流大会では、バーベキューを囲んでバレー談義も弾みましたが。一方で子ども達が焼肉を食べ過ぎて、本番の試合を本気で心配した事もありました。（太った子が多いのも、うちの伝統です。）

今年で大会も最後になりましたが、２０年間大会を開催して下さった関係者の皆様、大会前日から町を挙げて歓待して下さった伯太町の方々に深く感謝申し上げます。

∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞

『自分の体力年齢を知ろう！』

安来市では、各地区体育協会単位で毎年４地区にて体力テストが行なわれています。

これは、文部科学省が定めた統一された種目、方法で行い、市内３８名の体育指導員がリーダーとなって行なっています。

測定値は、安来市体育協会を通じて上部機関に送られ、貴重なデータとして参考にされます。また、個人にも通知され自分の体力年齢を知る参考になるテストです。

体力テストと聞けばハードな感じを受けますが、そうではありません。

内容は、年齢が６歳～１１歳、１２歳～１９歳、２０歳～６４歳、６５歳～７９歳対象と分けてあり、それぞれ６～９種目（年齢により異なります。）ありますが、男性女性の区別はありません。それくらい簡単で易しい体力テストです。

今年度は、荒島、飯梨、広瀬、赤屋地区で予定しています。多数のご参加を体育指導員一同お待ちしております。

開催日は各地区とも未定ですが、年内に開催する計画です。

お問い合わせは、安来市体育協会事務局まで。

『市民健康ウォーキング大会』

能義おたべウォークラリー
～大国魂大神降臨の地
能義路を歩こう～

能義地区体育協会

神代の昔、大国魂大神は国土を開かんと能義の地に降臨され、人々を導き、朝夕自ら鍬、鋤をとられて農耕をすすめられ、医薬を授け、産業を拓きたまわれました。

この能義の里は、よほど地味が豊で、大神の御心に叶った美しい土地であったのでしょう。

「大国魂大神」、「大田命」、「倉稲魂命」など歴史文化や名所旧跡など特色を取り入れたコースが設けてあります。世代を超えて気軽に参加してみませんか。

開催日　平成２２年１２月５日（日）

参加料　２００円（高校生以下は無料）

昨年のすこやかウォークin比田

歴史と風格の残る町
母里のウォーキング

母里地区体育協会

歴史とチューリップの町「母里」は、城下町の面影を今に伝える江戸時代からの地割や、武者隠しなどを残す風格ある旧家が多く、城下町の風情に浸みることができるコースのウォーキングに参加してみませんか。

皆様の多数の参加をお待ちしています。

開催予定日　１１月２１日（日）

詳しくは、各地区交流センターまでお問い合わせください。

『自治会親善野球大会』

～優勝　植田町～

今年は、９１チームの参加があり、安来運動公園を主会場に８会場において、８月１３日から１５日にかけて９０試合の熱戦が繰り広げられました。

自治会の皆さんの温かい声援を受けながら、珍プレー、好プレー多々あり、町内を挙げての親善ができたのではないでしょうか。

ベスト８の試合結果は、次のとおりです。

準々決勝

チーム名	1	2	3	4	5	計
宇賀荘町	2	0	0	0	0	2
神　塚　町	3	0	0	0	0	3

チーム名	1	2	3	4	5	計
城　谷　町	0	0	0	3		3
新　　町	0	4	0	×		4

チーム名	1	2	3	4	5	計
植　田　町	5	1	1	1		8
沢　　町	3	0	1	0		4

チーム名	1	2	3	4	5	計
高広町・和田団地・あかねケ丘連合	2	4	0	5		11
島　田　町	0	0	0	0		0

準決勝

チーム名	1	2	3	4	5	計
新　　町	0	0	0	2		2
神　塚　町	0	0	0	0		0

チーム名	1	2	3	4	5	計
高広町・和田団地・あかねケ丘連合	1	0	1			2
植　田　町	5	3	1×			9

決　勝

チーム名	1	2	3	4	5	計
神　塚　町	0	0	0	0	0	0
植　田　町	2	2	1	0	×	5

平成２２年度安来市体育協会総会において、次の皆様が表彰されました。

深田　富造　様

地域スポーツ活動の普及・振興に努められ、地域スポーツ活性化に貢献されておられます。

荊尾　　厚　様

１７年間の永きにわたり宇賀荘地区の体育振興に尽力されておられます。

山田　弥佳　様

平成２０年に「第２回INAS-FIDグローバル競技」世界大会バスケット競技の日本人選手として最年少で出場され、世界第３位の成績を収められました。

伯太中学男子バレーボール部　様

出雲地区新人大会を始めとする各種大会において優勝を成し遂げ、県内はもとより、山陰・中国・全国へとその名を轟かせました。

伯太中学校の生徒たち

編集後記

当体協の組織は、競技部会、地域振興部会、少年育成部会、指導者部会があり、各部の育成及び活動支援のための助成を行いながら、地域のコミュニケーションの熟成を図るとともに、スポーツやレクリエーション活動を通じた市民の健康増進づくりを積極的に推進しています。

今年、「安来市体育協会だより」を発刊いたしましたが、皆様からのご意見をいただきながら、今後の活動に繋げていきたいと考えております。

〒692-0011 安来市安来町1337-1
安来市体育協会（安来市民体育館内）
TEL 0854-23-1923（兼ファックス）
E-mail:taikyou@yasugi-reserve.0ch.biz